

「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」
提言アイデア集

令和2年8月26日

「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」チーム

各班検討テーマ

1班：「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

2班：「住み続けられるまちづくりを」

3班：「つくる責任 つかう責任」

4班：「海の豊かさを守ろう 陸の豊かさも守ろう」

5班：「ローカルからグローバルへ、
グローバルからローカルへ行動しよう」

「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」2019年度チームメンバー

1 班	古田 弓絵	3 班	関 郁穂
	鷺淵 友祐		岡本 大輝
	古澤 和也		荒川 彩
	橋高 寛人		片桐 将吾
	松原 由樹		山原 拓己
	古屋 翔悟		他1名
	寺北 美笑悠		
2 班	都 公	4 班	市野 梨央
	安達 ひかる		白谷 野々花
	前 駿佑		藤原 司
	森 成諒		村上 由三
	丸山 純矢		他1名
	福澤 颯	5 班	薄 航大
	他1名		平川 達也
		他1名	

検討にあたりご助言をいただいた有識者の皆様

宮藤 久士 様	京都府立大学 教授
阿部 健一 様	総合地球環境学研究所 教授
篠原 真毅 様	京都大学 教授
花嶋 温子 様	大阪産業大学 准教授
魏 啓為 様	公益財団法人地球環境産業技術研究機構 主任研究員
山口 容平 様	大阪大学大学院 准教授
田中 利男 様	一般財団法人大阪府みどり公社 シニアコーディネーター
下司 聖作 様	とよなか市民環境会議アジェンダ21

万博×環境 未来を描こうプロジェクト

第1回 ミーティング 議事録

[日 時] 2019年9月27日(金) 18時～20時

[会 場] 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー) 41階 共用会議室⑤

[参加者] チームメンバー26名、スタッフ・関係者9名

[概 要] 2025年大阪・関西万博に向けて、多くの若者(16～29歳)から、実現して欲しい環境・まちづくり等のアイデアを集約、発信する「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」の第1回ミーティングを開催した。

これからチームで動いていくため、メンバーの自己紹介から始まり、それぞれが抱く万博のイメージの共有、2025年大阪・関西万博の開催概要の把握、未来社会のイメージと未来社会に向けたアイデア出しを行った。ミーティングは今回を含めて5回～6回開催予定。次回ミーティングの日時は、欠席者も含めた全メンバーに照会して決める。

- [次 第]
1. 概要説明／自己紹介
 2. 万博のイメージをシェアしよう！
 3. 「2025年大阪・関西万博」について知ろう！
 4. 未来の社会の姿をイメージし、それに向けたアイデアを出そう！
 5. 事務連絡

1. 概要説明／自己紹介

① 概要説明

「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」は、2025年大阪・関西万博に向けて、多くの若者から、実現して欲しい環境・まちづくり等のアイデアを集約、発信するプロジェクトです。チームメンバーは、今回のミーティングを含めて5～6回集まり、提言をまとめていきます。多くの若者(100人程度)の意見をまとめた提言書にするために、これから、その方法も含めて検討していきます。

エコ・ファースト企業や行政、大学などの有識者、NPOなどからのサポートを受けられる環境にあるので、積極的に議論をして、必要に応じて専門的な話を聞くことも可能です。

大阪府から費用面での補助はありませんが、会議室の確保や広報発信の協力などをいただくことも可能です。

このプロジェクトは、単年度のプロジェクトですが、2025年に向けて、実現に向けて動いていけるようなチームをめざして積極的に話し合いをしましょう。

メンバーは、定員を超える応募があり、申込を締め切りましたが、100人のアイデアをまとめていく中で、メンバー以外の人に集まってもらう機会もあるかもしれません。

② 自己紹介

全体でメンバーの自己紹介を実施しました。加えて、名前と顔を少しでも早く一致させて、チームとして一緒に動いていける関係性を作るために、テーブルごとに積み木自己紹介(※)を実施しました。

※積み木自己紹介は、輪になって自己紹介を行い、自分より前に自己紹介をした全ての人の自己紹介内容を覚えて、それを全て言った後に自分の自己紹介をするというもの。

2. 万博のイメージをシェアしよう！

チームの中には、万博に行ったことがある人もいれば、行ったことがない人もいます。それぞれの万博に対するイメージや知っていることを付箋に書き出して、チームメンバーの万博に対する認識がどのようなものなのかをシェアしました。ワークショップでは、以下のようなイメージが共有されました。

- ・国際的なイベント
- ・先端技術の展示がある
- ・各国の特徴が出る
- ・芸術との関わり
- ・経済効果がある
- ・パビリオン
- ・世界中から人が集まる
- ・地球について考える
- ・未来予想設計
- ・マスコットキャラクター
- ・太陽の塔／岡本太郎
- ・駅ができる
- ・宇宙が身近な存在になるなど

3. 2025年「大阪・関西万博」について知ろう！

チームメンバーがシェアした万博のイメージや知識が、「2025年大阪・関西万博」と近いところがあるのか、違っているのか、確かめる意味も含めて、大阪府エネルギー政策課から、万博の位置付け、「2025年大阪・関西万博」の誘致時の提案内容等について説明しました。

4. 未来の社会の姿をイメージし、それに向けたアイデアを出そう！

2025年大阪・関西万博では、2030年に達成期限が迫るSDGsの達成に貢献することが明示されています。2030年にはどんな社会、環境になっていけばいいかをイメージし、付箋に書き出しました。また、その社会像を実現するためには、どんなアイテム（技術など）が必要になるかのアイデアを出し合いました。ワークショップでは、以下のようなイメージやアイデアが共有されました。

《1班》

- ・ごみ箱にバスケットボールのゴールをつけるなど、小さなアイデアで環境活動を推進させる。
- ・環境問題はリターンやリスクが見えづらいので見える化する。

《2班》

- ・環境問題やSDGsについて一般の人でも周知している社会になっている。
- そのためには、研究者や学生など、知識を持っている人たちが積極的に普及させる。
- でも興味のある人となない人とは普及率が変わるかもしれないので、伝える方法を考える。そして、その伝える方法が万博なのではないか。

《3班》

- ・都市に自然を残すにはどうしたらいいかを考えたとき、自然が増えていったらお金が貰えるシステムがあったらいい。
- ・テレワークの普及により都市に人口が集中しない社会になっている。
- ・自然の管理や、農業を機械がメインでできるようになり、それらの負担が減る。

《4班》

- ・人口減少と高齢化により、まちはコンパクトシティ化している。
- ・近くのスーパーまでは自動運転自動車が走っていて、自転車やスクーターのシェアリングも普及している。
- ・でも、どこでもドアがあればコンパクトシティ化させる必要もない...

《5班》

- ・地球温暖化防止のため化石燃料は使わない社会になっている。
 - ・代わりに太陽光発電などが普及している。
 - ・自然エネルギーですべての電力を賄うのが難しければ、宇宙空間に太陽光発電パネルを建設する。
 - ・宇宙で発電した電力は、宇宙から地上まで道を繋げて運ぶ。
- 化石燃料の問題について考える時間でもできるし、経済的にも良いのではないかと

5. 事務連絡

次回の日程調整は、初回欠席者の方も含めた全員に日程調整をさせていただき、参加できる方が多い日程で開催します。

万博×環境 未来を描こうプロジェクト 第2回 ミーティング 議事録

[日時] 2019年11月5日(火) 18時～20時

[会場] 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー) 41階 共用会議室⑤

[参加者] チームメンバー32名、スタッフ4名

[概要] 2025年大阪・関西万博に向けて、多くの若者(16～29歳)から、実現して欲しい環境・まちづくり等のアイデアを集約、発信する「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」の第2回ミーティングを開催した。

前回のミーティングの内容について振り返った後、本プロジェクトで取り組むテーマについて、各々調べてきた内容を発表した。その後、テーマごとに5つのグループに分かれて仮のリーダーを決め、若者100人から意見を集めるための手法、スケジュール、今後の進め方を考えた。

次回のミーティングまでに各グループで話し合い、100人の意見を集める具体的な戦略や、専門家や企業等へのヒアリングの検討等を進める。

- [次第]
1. 第1回ミーティングの振り返り
 2. 個人研究の発表
 3. 目標とスケジュールの確認
 4. テーマごとのグループ分けとリーダー決め
 5. 若者100人の意見集めについて考える
 6. 事務連絡

1. 第1回ミーティングの振り返り

振り返りとして、前回のミーティングの様子を動画で共有しました。

2. 個人研究の発表

本プロジェクトの提言書作成に取り組む上で必要な基礎知識を得るために、5つのテーマの内の1つについて、各自が調べてきた内容をグループに分けて1人5分で発表をしました。

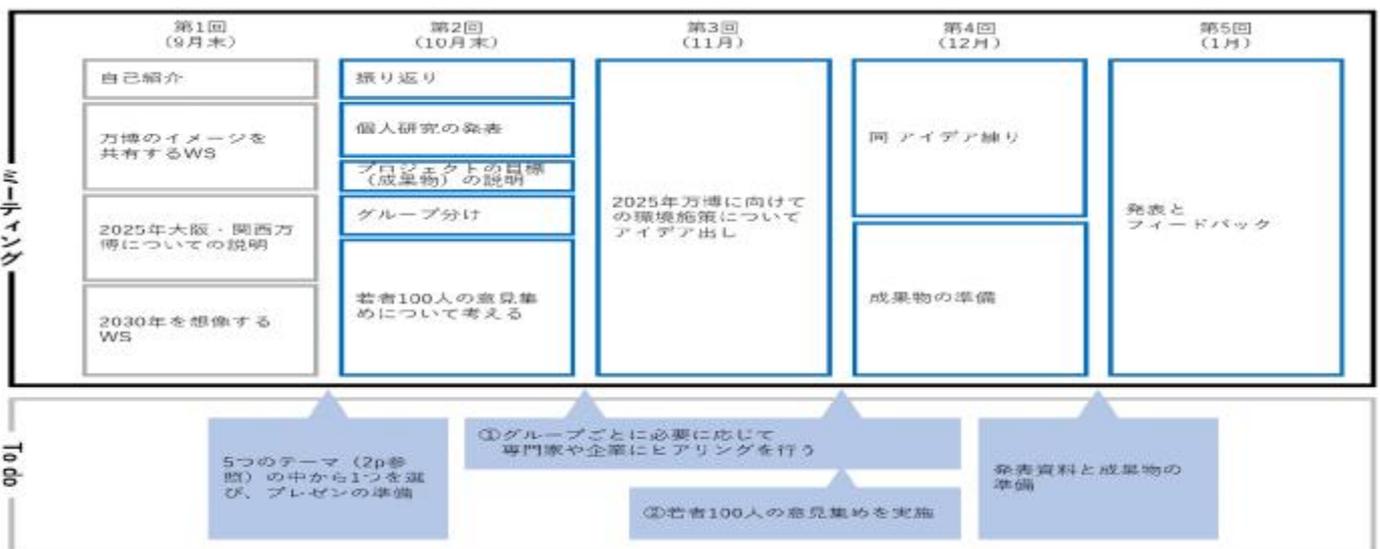
発表では、テーマに関連するキーワードについて調べてきた方もいれば、昨今のニュースを取り上げていた方、今後の取組方法の提案をしている方もいました。

3. 目標とスケジュールの確認

①目標について

テーマごとに5つのグループに分かれ、提言書作成に取り組む前に、本プロジェクトの目標や意識することについて以下のとおり共有しました。

- ┃ 本プロジェクトが、万博で実現してほしい環境やまちづくりなどのアイデアを考え、発信していくためのものであること。
- ┃ 固定概念に囚われない若者らしい自由な発想でアイデアを出すこと。
- ┃ 各人が出したアイデアに対しては、否定をせずに話し合うこと。
- ┃ プロジェクトメンバーに加えて、合計で約100人の若者の意見が詰まったアイデアを提案すること。



②スケジュールについて

今後のスケジュールは、表を目安に進めていきます。表に記載の全体ミーティング以外にも、必要に応じて各グループで集まって頂いても構いません。

第4回ミーティングまでには各グループで、**100人**の若者からの意見集めの手法と、必要に応じて専門家や企業へのヒアリングを行う計画を練ります。

最終的に本プロジェクトでは、それぞれのグループでまとめたアイデアを第5回ミーティングにて発表（各グループ**20分**）します。その際に受けた意見等を反映させて、提言書を作成します。

4. テーマごとのグループ分けとリーダー決め

①グループ分け

本プロジェクトを通じて取り組みたいテーマを選び、**5つ**のグループに分かれました。第2回ミーティングの参加者は以下のように分かれました。

・テーマ①：**6名** ・テーマ②：**12名** ・テーマ③：**6名** ・テーマ④：**5名** ・テーマ⑤：**3名**
欠席者（**11名**）は、希望のテーマを選択し、各グループのリーダーを通してグループに参加するという流れになります。

②リーダーの決定

今後のグループ運営をスムーズに行うため、仮のリーダーを決めました。

5. 若者**100人**の意見を集める手法とスケジュールについて

本プロジェクトでは、提言書のアイデアを、より広げたり深めたりするために、プロジェクトメンバー以外の若者からも意見収集を行い、合計で**100人以上**の若者からの意見として提案をします。ミーティングでは、意見収集方法、スケジュール等についてグループで話し合い、協議内容をワークシートにまとめて発表しました。各グループの発表内容は以下のとおりです。

《テーマ①》

- ・ツイッターなどの**SNS**や、グーグルフォームを使って、大学生の専門的なアイデアと、高校生の自由なアイデアを集める。
- ・**12月中旬**までに意見を集める。

《テーマ②》

- ・メンバーが友人や知人に直接聞き取りを行うことで意見収集を行う。
- ・グループでの意見収集の目標人数は**20名**。

《テーマ③》

- ・意見収集の方法はグーグルフォームのアンケート機能を考えている。
- ・**12月の初旬**までに内容を決め、**SNS**を通じて回答を集める。

《テーマ④》

- ・意見収集の方法としては大きく**3つ**考えている。
(1)大学の食堂に意見の書き込みができる白い大きな紙を貼って、意見を集める。
(2)外国人の若者からヒアリングできるメンバーがいるので外国人の意見も取り入れる。
(3)街角インタビューを行う。
- ・どんな問いかけをしてどんな情報を集めるかは未定。

《テーマ⑤》

- ・意見収集の方法や内容などは未定。
- ・進め方は、各自で調べてきたことや意見を出し合い、グループで検討を進める形を考えている。

6. 事務連絡

次回（第**3回**）ミーティングまでに、プロジェクトメンバーが取り組むことは以下の通りです。

- 1 グループごとに集まり、若者**100人**からの意見収集方法、専門家・企業等へのヒアリング等の実施について話し合う。
- 1 第**2回**ミーティングの欠席者がグループに入る際、スムーズに参加できるようリーダーがサポートする。
- 1 各グループのリーダーの中から、プロジェクト全体のリーダーを決める。

チーム分けのテーマについて

テーマ	詳細	関連ワード例
<p>① エネルギーをみんなにそして クリーンに</p>	<p>日本は 2050 年までに CO2 排出量を 80%減らし、脱炭素社会を今世紀後半のできるだけ早くに実現するとしています。しかし、そのためには、再生可能エネルギーや電気自動車・燃料電池自動車の普及を徹底させるなど、大きな技術の進歩と社会の変革が必要です。</p> <p>加えて、脱炭素社会を実現させるには、電気を極力使わないライフスタイルを確立する必要があります。</p> <p>このテーマでは、2025 年万博において新技術を広め、社会に変革をもたらすためには、どんなアイデアの見せ方をしたらいいかを考えます。</p>	<p>#低炭素 #脱炭素 #CO2 削減 #化石燃料 #水 素エネルギー #新エネ ルギー #EV #FCV #人 工光合成</p>
<p>② 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>世界では、アジアやアフリカのように都市人口が増えている地域と、日本のように都市は仕事をする場所で、生活をするのは郊外という傾向の地域があります。</p> <p>しかし、郊外化には移動エネルギーの増大や、コミュニティの希薄化などの問題があります。通勤ラッシュ、地域の見守り機能の低下、高齢者の自動車事故などが例に挙げられます。</p> <p>今後人口が増える都市も減る都市も、1000 年続くまちになるためには、どんな仕組みや技術が必要でしょうか？</p> <p>このテーマでは、それらのアイデアと 2025 年万博ではどのような社会実験ができるかを考えます。</p>	<p>#スマートシティ #スマ ートモビリティ #自動運 転 #ICT #郊外化 #産 業空洞化 #人口動態 # 都市環境 #自然共生 # 防災 #減災 #インフラ 整備 #クリーンな交通</p>
<p>③ つくる責任 つかう責任</p>	<p>過去 50 年間で、世界の人口は 2 倍になり、資源の利用量は 3 倍になりました。また、天然資源の採掘と加工は、生物多様性を損ない、水不足や気候変動の原因となっています。</p> <p>一方、国内の需要を満たすために消費される天然資源量は、高所得国が低所得国の 13 倍以上と大きく不平等な状況です。</p> <p>加えて、プラスチックや食品の大量生産大量消費の課題もあります。</p> <p>このテーマでは、2005 年愛知万博で取り組まれた 17 種分別やもったいない精神より、さらに先を見据えた、資源の効率利用や循環型経済のモデルを、2025 年万博ではどのように体现するかを考えます。</p>	<p>#資源効率(RE) #サーキ ュラーエコノミー(循環型 経済) #マテリアルフッ トプリント #水ストレス #淡水化技術 #海洋プラ スチックごみ #3R #フ ードロス</p>

テーマ	詳細	関連ワード例
<p>④ 海の豊かさを守ろう 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>自然は、私たちの生活に必要な食料や水など、さまざまな恵みをもたらすほか、金属や化石燃料をもたらす大切な資源です。しかし、近年その破壊や汚染が進んでいます。</p> <p>生活や経済の基盤である、森林、土壌、水、大気、生物などの「自然資本」を、この先も持続的に利用するにはどうしたらいいのでしょうか？</p> <p>2025年万博の会場は人工島ですが、会場に運び込まれるさまざまな「物」によって、自然資本と繋がっています。このテーマでは、「物」を生産し消費する社会の中で、自然資本が、持続的な関係になるには、どのようなアイデアを万博で提案できるか考えます。</p>	<p>#里山資本主義 #里山イニシアチブ #地域循環共生圏 #生物多様性 #グリーン経済 #生態系サービス #サプライチェーン</p>
<p>⑤ ローカルからグローバルへ、グローバルからローカルへ行動しよう</p>	<p>スウェーデンの16歳の少女グレタ・トゥーンベリさんが始めた、毎週金曜日の温暖化対策運動は、SNSを通じて全世界の若者に広がりました。</p> <p>他にもさまざまな環境問題に対する地域の小さな活動が、Webを通じて世界中に共有・拡散され、企業や政治を動かしつつあります。</p> <p>「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」の元となった、大阪府民会議の学生エコチャレンジミーティングも、環境のための行動を地域に広げることを目的として意見交換と発信を行ってきました。</p> <p>このテーマでは、エコチャレンジミーティングの、地域の活動を世界に広げる、あるいは、世界的ムーブメントを地域での行動に落とし込む活動を土台に、2025年万博から地域と世界に発信するメッセージについて考えます。</p>	<p>#エコチャレンジミーティング #グレタ・トゥーンベリ #グローバル気候マーチ #パートナーシップ</p>

万博×環境 未来を描こうプロジェクト 第3回 ミーティング 議事録

[日 時] 2019年12月4日(水) 18時～20時

[会 場] 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー) 41階 共用会議室⑤

[参加者] チームメンバー12名、スタッフ4名

[概 要] 2025年大阪・関西万博に向けて、多くの若者(16～29歳)から、実現して欲しい環境・まちづくり等のアイデアを集約、発信する「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」の第3回ミーティングを開催した。

グループごとに議論し、アイデアの内容を深めた後、専門家等へのヒアリング内容に加え、今後のスケジュールについても確認した。

12月23日に次回(第4回)ミーティングを開催し、最終発表へのプレゼン準備を行う予定である。

[次 第] 1. 各グループの進捗状況の共有

2. グループ毎の協議

3. グループ毎の今後のスケジュール確認

1. 各グループの進捗状況の共有

各グループの進捗状況について、次のとおり、メンバーで共有しました。

- 1班: 若者から多くのアイデアの収集ができて一方、検討がまだ不十分。今後、アイデアの実現方法等について議論していく。
- 2班: テーマである「まちづくり」は検討すべき対象が広いので、範囲を狭めて内容を深めていく方向で議論している。一方、ヒアリング内容については未定であり、今後検討していく。
- 3班: テーマを①海洋プラスチックごみ、②フードロス、③3Rの3点に絞り議論を進めている。一方、ヒアリング内容については未定であり、今後検討していく。
- 4班: テーマである「自然資本」を『森』に絞って議論している。また、若者からの意見も回収し始めている。小学生を対象とした意見収集については、年明けに実施予定である。
- 5班: 2つのアイデア(①人間の死の側面からの環境問題への行動促進の方法、②若者の社会運動や芸術活動を取り上げるパビリオン構想)の議論が進んでいる。②のアイデアに関して、「芸術を通じて環境のアイデアを見せる場があれば、どんな出し物をしたいか」についての意見を募る予定である。

2. グループ毎の協議

グループに分かれアイデアの検討を進めました。なお、参加人数の少ないグループについては、他班のメンバーやスタッフから意見を貰いつつ、検討を進める時間も設けました。

[1班]

○ 最終発表に向けて、深めていく内容は以下のとおり。

①再生可能エネルギーについて

再生可能エネルギー(宇宙太陽光発電、潮力発電、廃棄物発電、ワイヤレス給電、電池の固体化)について、取り組むテーマを1つに絞ることができなかつたため、ヒアリングを行ってから絞ることを検討する。ヒアリング先は、宇宙太陽光発電を京都大学、廃棄物発電及び電池の固体化は関西電力を想定。

②電力の地産地消について

電力の地産地消を進める上での課題である電送ロスの軽減法(コミュニティを小さくする等)について、関西電力へヒアリングを行い検討する。

○ アンケート等により若者からの意見は十分に集まったものの、抽象的な事項が多いため、これからアイデアにどう活かしていくかの検討が必要。

[2班]

○ テーマである「まちづくり」は範囲が広いので、取り組む分野の一覧を挙げ、その中からグループからの意見が少なかった分野を削除した。また、「娯楽」と「文化」、「環境」と「食品」、「交通」と「インフラ」、「ネット」と「文化」、「建築」と「インフラ」の統合を行った。加えて、「農林水産」を「少子高齢化」に変更し「福祉」と統合した。その結果、まちづくりに関して取り組んでいく分野は①インフラ、②行政運営、③観光、④教育、⑤環境、⑥文化の6点に

集約された。この中からさらにグループメンバーを各担当に分ける想定。

- 今後、グループメンバーが各々2人程度に、担当分野に関する課題をヒアリングする。

【3班】

- 他班やスタッフから、アンケートを行うことが目的ではなく、若者からの意見を集め、具体的なアイデアに落とし込んでいくことの方が重要との指摘があり、若者からの意見収集の内容について以下の修正を行った。
 - ・ 海洋プラスチックごみ、フードロス、3Rに関心があるかどうかについての問いを削除。
 - ・ 各質問内容を、さらに具体的な質問内容に変更。
 - ・ アイデアを募る項目を追加。
 - ・ 若者からの意見収集はテーマに関心があり信頼できる知人数人に対して行う。
- 問題解決のための新技術や新制度について研究している教授や、テーマに対して活動しているNPO法人をヒアリング先として想定しており、研究・活動内容や、自分たちのアイデアに対してのアドバイスを貰うヒアリングを想定している。

【4班】

- 今後必要な作業は次のとおり。
 - ・ アンケートの質問文修正
 - ・ 若者からの意見収集の実施及び集計
 - ・ 若者からの意見を元に、万博で提案するアイデアの考察
 - ・ 発表資料の作成
- ミーティングで他班やスタッフから出た意見は次のとおり。
 - ・ アイデアにもっと新奇性を持たせたほうがいい。
 - ・ 2030年がどんな状況かを想像してアイデアを出すといい。
 - ・ アンケートを行うことは目的ではなく、アイデアを出すことが目的である。
 - ・ 万博は社会実験を行う場だと考える。

【5班】

- グループメンバー4人を2テーマ（①若者ステージ、②死について）2人ずつに分けた。今後各自に取り組んでももらいたいことを連絡し、ヒアリングと若者からの意見収集は年内に完了予定。

3. グループ毎の今後のスケジュール確認

【1班】

12月9日 : グループで集まり、ヒアリングの際に聞きたい内容の決定。

【2班】

～12月6日 : 取り組む分野を選択
～12月23日 : 各分野の過去事例、現状分析、解決策などの案を出す。
～12月23日 : 担当する分野の課題・解決策を知人（2人）にヒアリングする。

【3班】

～12月8日 : 若者からの意見収集について内容の変更
12月9～15日 : 若者からの意見収集実施
～1月中旬 : 3～4回のチームミーティング

【4班】

～12月10日 : 若者からの意見収集について内容の決定
12月10日 : グループミーティング
12月11日～ : 若者からの意見収集の再実施及び小学生向けの意見収集の内容詰め
～12月23日 : 若者からの意見収集の再実施
12月24日～ : 集計とアイデアの発案
1月上旬 : 最終発表の資料作成

【5班】

LINEで日程調整を行う。

万博×環境 未来を描こうプロジェクト 第4回 ミーティング 議事録

[日 時] 2019年12月23日(月) 17時～20時

[会 場] 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー) 41階 共用会議室⑧

[参加者] チームメンバー20名、スタッフ6名

[概 要] 2025年大阪・関西万博に向けて、多くの若者(16～29歳)から、実現して欲しい環境・まちづくり等のアイデアを集約、発信する「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」の第4回ミーティングを開催した。

ミーティングでは各班の進捗状況を共有し、大阪府からのフィードバックを行った。

次回ミーティングは最終発表会の予定であったが、チームメンバーと調整した結果、発表会は2月に遅らせ、追加で1月中旬にミーティングを開催することとした。

[次 第] 1. 各グループの進捗状況の共有及び大阪府からのフィードバック
2. 各グループでの議論
3. 5班から意見収集のプレゼンテーション

1. 各グループの進捗状況の共有及び大阪府からのフィードバック

各グループの進捗状況について、次のとおり、メンバーで共有しました。

【1班】

第3回全体ミーティングの後に、チームミーティングを2回実施した。現状は次のアイデアが挙げられている。

①電力を自給自足するモデルハウス

家庭で使用する電力すべてを、家そのものだけで発電する「電力を自給自足するモデルハウス」を万博で展示するアイデア。温度差発電シートを給湯器に貼る案や、塗るだけで太陽光発電ができるインクを壁に塗装する案などを考えている。技術については現在調査中であり、実現可能性の検討のためヒアリングを実施予定。

<大阪府からの意見>

- ・ 「おおさかエネルギー地産地消推進プラン」を参考にすると良いと思う。
- ・ 大阪は風が弱いので、風力発電の効率は悪い。
- ・ マンションでの太陽光発電なら、一棟分もの電力は発電することができない。
- ・ 地域や場所によって効率のよい発電方法は異なるので、家々で電力のやり取りができるようにするアイデアを提案すると良いと思う。
- ・ 家そのものだけで一世帯分の電力を発電する案は面白い。

②宇宙での太陽光発電

宇宙にメガソーラーパネルを設置するアイデア。地上に送電された電力の使用法として議論しているのは次のとおり。

- ・ 世界中に通じる道路を建設し、電気自動車の給電と自動運転のセンサーに使用する。
- ・ 自国で発電を賄うことができていない発展途上国の開発のために使用する。
- ・ 人工光合成の動力にする。

宇宙から地球に電力を送電する技術の実現可能性の検討のためヒアリングを実施予定。

<大阪府からの意見>

- ・ 宇宙での太陽光発電の構想は既に進んでいるので、宇宙で発電された電力の使用法について提案すると良いと思う。

【2班】

第3回全体ミーティングの後に、チームミーティングを1回実施した。現在、「まちづくり」を4つのキーワードで分けて議論している。

①インフラ

万博後の夢洲の活用方法について、未来のために使われる「研究島」として残す。研究島では、技術的な社会実験を行うため、通常とは異なり、更新しやすいインフラにする必要がある。また、倫理的な社会実験も行える場所にしたいと考えている。例えば、グラフィティアートが自由な街であったり、一般的には不適切（わいせつ、差別的）だと批判を受けるようなアートも自由に表現できる街を考えている。研究島に住む人たちには、電気が停まるなどの不便があるかもしれない一方で、最新の技術に触れられるメリットもある。

<大阪府からの意見>

- ・ 万博後の夢洲の使い方については「夢洲まちづくり構想」を参考にすると良いと思う。
- ・ 大阪ガスの「NEXT21」は、大阪ガスの研究段階の様々な装置を設置している社宅であり、参考にすると良いと思う。

②教育

「子どもたちの考える力を育む」「地域と繋がる」教育を万博で実現させたいと考えている。例えば、VR等最新の技術を使い、資格が必要な仕事や、普段は入れないような場所でも、学んだ知識が実際に使われているところへ行き、専門家やそこで働く人から直接話を聞く体験ができたり、自分が知りたいと思っている地域を中継で繋いで、歴史や文化が残っている街を観光できるものと考えている。

<大阪府からの意見>

- ・ VRで行う教育の方法について、もっと具体的な案があると良いと思う。

③防災減災

緊急地震速報のような、自然災害の多い日本だからこそ世界に発信できる新しい防災減災のシステムを提案予定。例えば、万博の会期中に、事前のアナウンス無しで、津波が来た想定の方災訓練を実施し、スタッフや来場者の対応状況の実験をアイデアとして考えている。

<大阪府からの意見>

- ・ 災害を知らない世代、あるいは、災害を忘れてしまった時代でも、防災に人々を巻き込めるようなシステムを提案すると良いと思う。
- ・ 防災減災のテーマからアイデアを環境に繋げるために、なぜ近年竜巻やゲリラ豪雨のような自然災害が多発するようになってしまったのかを考えると良いと思う。

④行政運営

今後人口が減少し、自治体職員も減っていく中で、持続可能な公共サービスを提供していくために、万博運営を行政運営と考え、手続きの簡略化や公民連携などの行政運営について提案する。

<大阪府からの意見>

- ・ 手続きの簡略化や公民連携は既に大阪府でも取り組んでいることなので、①から③の2班のアイデアを、万博で実現する手続き論について提案すると良いと思う。

【3班】

第3回全体ミーティングの後に、チームミーティングを1回実施した。「海洋プラスチックごみ」「フードロス」「3R」についての意見収集を行ったところ、そもそも若者は環境意識が低いという点をグループでは問題に感じている。そのため、人々の環境意識を改善するようなアイデアと、そのアイデアをグループのテーマへどう絡めるのかを議論している。

<大阪府からの意見>

- ・ 大阪府では海洋プラスチックごみに関して「亀にストローが刺さっている絵」を発信している。
- ・ 関心のない人に環境への意識を向けるためには、ある程度ショッキングな内容を発信する必要があるのではないか。
- ・ 若い人たちの興味を持つ視点からアイデアを考えると良いと思う。

【4班】

第3回全体ミーティングの後に、チームミーティングを3回実施した。現在は来場者の万博での行動を記録し、地球にどのような影響を与えているかを可視化するシステムについて考えている。例えば、会期中の1日を地球の50日と仮定し、来場者がペットボトル飲料を購入した場合と、マイボトルを持参した場合とで、環境貢献度が変化し、それらをリストバンド型のスマートデバイスで記録する。行動記録は数値や絵、プロジェクターなどによって可視化され、万博が終わった時、来場者の行動により、2050年の地球はどのように変化したかが分かるというアイデア。

<大阪府からの意見>

- ・ 会期中、万博に1度しか訪れない人にとっても、環境のために行動することのメリットを知れたり、環境学習ができたたりするシステムにすると良いと思う。

【5班】

第3回全体ミーティングの後に、グループメンバー2人が1度会う機会を設けており、その他の議論はLINE上で行っている。現在2つの案について議論している。

①若者ステージ

次世代の環境リーダーを発掘するようなオーディションを考えている。ステージ内容は一発勝負のコンテンツと、積み重ねで取り組むコンテンツとがある。一発勝負のコンテンツは、演劇や映画、アナウンス、ダンス、歌といった芸術や文化をステージで披露するコンテンツであり、積み重ねで取り組むコンテンツは、防災教育やボランティア、ビジネスなど、万博で開かれる若者ステージまでに年単位で選考を重ねるもの。

②生と死

すべての環境問題は人間の生存活動に繋がるため、高齢化が進む日本だからこそ世界に発信できるメッセージとして、もっと死をポジティブなものに捉えさせるアイデアを検討している。例えば、満80歳で死が義務化される行政特区を設けたり、死ぬ前に生前お世話になった人たちへ挨拶をするエンディングパーティーを開催したりといった「死をデザインする」アイデアを考えている。

<大阪府からの意見>

- ・ 環境問題を一般的なものとは異なり、立場と状況によって分けて考えるという発想は面白い。
- ・ 「死をデザインする」という言い方が倫理的に波紋を呼ぶ可能性もあるので、表現はよく検討して欲しい。
- ・ 2025年大阪・関西万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマは、生と同じく死もテーマにあったので、生と死のパビリオンに入る前と出てきた後では、来場者の価値観が激変してしまうような提案ができれば面白い。
- ・ 環境と人との関わりという点で、どのような変化が起こせるかという提案も含めることができればより良いと思う。

2. 各グループでの議論

【1班】

- ・ 電力を自給自足するモデルハウスについては、太陽光発電を主力の発電にすることが決まった。
- ・ マンションであれば高低差を活かした小規模水力発電ができそうという提案があった。

【2班】

- ・ 歩行での発電はすでに森美術館で実現されているので、もっと未来を想定して検討したい。
- ・ 博覧会協会へのヒアリングを提案したところ、スタッフから「夢洲まちづくり構想」以上の検討はされていないため、ヒアリングをしてもそれ以上のものは聞けないかもしれないとのことであったが、提案内容やヒアリング事項をまとめて再度打診することにした。
- ・ 大阪市開発企画局の万博系のセクションの方にヒアリングへ行くことを検討した。
- ・ グループ内で各検討分野に未加入の方へ、どの分野での検討に参加するか選択を促す。
- ・ 1月中旬から下旬にかけ、ヒアリングとチームミーティングを行う。
- ・ 1月5日までに各分野のメンバーがヒアリング先への質問事項をまとめる。
- ・ 1月16日にチームミーティングを行う。

【3班】

- ・ 「海洋プラスチックごみ」「フードロス」「3R」にテーマを分けて検討していたが、海洋プラスチックを中心に3Rやごみ問題と絡めて検討していくことが決定した。
- ・ テーマよりもグループメンバーが万博で何を伝えたいかを重視する方向で検討を進める。
- ・ 1つ目の案として、プラスチックで覆われた壁に、来場者がプラスチックだけを回収できる装置をかざすと、プラスチックが除かれて、綺麗になった環境の絵が出現するモザイクアートを議論した。
- ・ 2つ目の案として、VRなど最新技術を使い、魚の気分になってプラスチックがある海を体験できるコーナーを議論した。

【4班】

- ・ 万博に訪れた来場者の行動を記録し、環境貢献度を数値化するシステムの名前は、「サステイナブル・ポイント (s.p.)」に仮決定した。
- ・ s.p.について、どんな達成目標を設けるか議論した。案としてCOPが掲げている2050年までの温度上昇数が上がった。
- ・ ただし、達成目標は達成することが目的ではなく、人々の意識向上をすることが目的。
- ・ 温度上昇に関する数値としてはどんな行動があるのか、次回のミーティングまでに調べてくる。
- ・ s.p.は万博会場内でのみ使える疑似マネーに換金でき、景品と交換することができる。
- ・ s.p.を取得できる機会は、環境教育やVRでの環境貢献体験、会場に緑を増やす体験、再生可能エネルギー普及への貢献などで用意し、また、万博会場でできないことはVRで体験を補うという意見が上がった。
- ・ s.p.を計測・可視化するデバイスはリストバンドを提案していたが、コスト面と万博に来場していない人の参加も考慮しスマホアプリへと変更した。
- ・ 今後のスケジュールとしては、1月中旬までに1回グループミーティングを行う。
- ・ 1月中旬のグループミーティングまでに以下3点についてLINE上で協議する。
 - ①万博で取得できそうな数値（例：温度変化に関わる数値など）
 - ②来場者がs.p.を取れる機会はどんなものがあるか
 - ③システムの名称

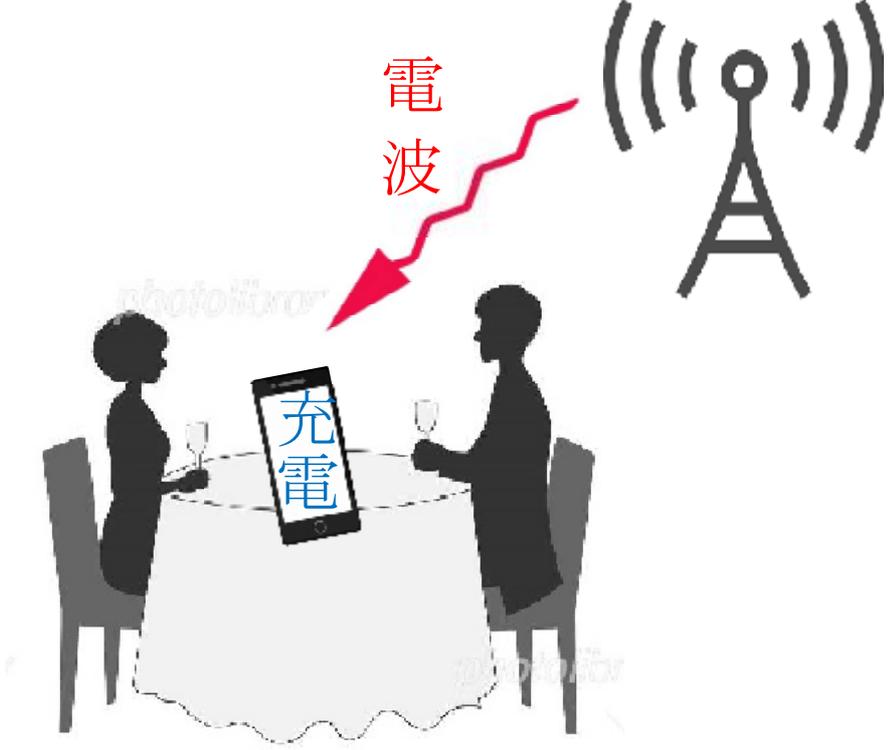
【5班】

- ・ 若者ステージについては、手段の検討は十分なので、目的について議論する。
- ・ 死と生パビリオンについては、倫理観を持った手段について議論する。

3. 5班から意見収集のプレゼンテーション

5班から若者ステージに関するアイデアの発表とチームメンバーに対して「どのような演目やテーマなら参加したいと思うか」「どのような分野の組み合わせが衝撃と革新を感じられるか」について意見を伺いました。

<p>テーマ</p>	<p>①エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	
<p>1 班- 1</p>		
<p>アイデア名</p>	<p>宇宙太陽光発電～マイクロ波送電でドローンを動かす～</p>	
<p>キーワード</p>	<p>36,000km、マイクロ波、レクテナ、送受電</p>	
<p>アイデアの説明</p>	<p>宇宙太陽光発電とは、宇宙に太陽光パネルを置いて発電するシステムである。現状の太陽光発電は天候に左右されたり、夜間は発電できなかったりという問題がある。しかし、静止衛星軌道であり太陽の影に入らない上空 36,000km にパネルを置く宇宙太陽光発電は、夜でも発電でき、天候の影響も受けないので、この問題を解決できる。発電した電気をマイクロ波に変換して地上の受電装置(レクテナ)に送る。</p> <p>万博では、宇宙太陽光発電が完成している見込みは低いですが、技術的には実現できるワイヤレス送受電でデモを行う。具体的には大阪万博で実現するという人が乗れるドローンの飛行中でのワイヤレス給電デモを行う。ドローンはモニターにバッテリーを表示して充電していることが見えるようにして、来場者にワイヤレス給電の効果を体感していただく。ワイヤレス給電の需要が広がることで、技術開発が進み、宇宙太陽光発電の実現につながる。</p> <div data-bbox="523 1153 1066 1854" data-label="Image"> <p>The diagram illustrates the concept of space solar power. At the top, a satellite labeled '宇宙太陽発電所 Solar Power Satellite' is shown in space. A beam of light represents solar energy being captured by the satellite. This energy is then converted into microwaves, labeled 'マイクロ波', which are transmitted down to the Earth's surface. On the ground, a 'レクテナ (rectifying antenna)' is positioned to receive these microwaves. A text box explains that the microwaves are rectified and converted into electricity. The diagram also shows a city at night, indicating that the system can generate power even when the sun is not visible. A label '電力エネルギー' (Electric Energy) points to the ground station, showing the final output of the system.</p> </div>	

テーマ	①エネルギーをみんなにそしてクリーンに
1班-2	
アイデア名	レストランやパビリオンでワイヤレス充電
キーワード	ワイヤレス給電、ワイヤレス充電、宇宙太陽光発電
アイデアの説明	<p>「ワイヤレス給電」をより多くの人々に認知してもらうために、万博会場内のレストランと、宇宙太陽光発電に関するパビリオン内にワイヤレス充電器を設置する。ワイヤレス給電とは、宇宙太陽光発電のシステムにおいて宇宙空間で発電した電力を地上に送電するという技術を利用したものである。具体案としては、来場者は食事やパビリオンを楽しみながら自分達のスマートフォンがワイヤレスで充電される様子を見ることができる。それとともに、レストランやパビリオン内には、ワイヤレス給電に関するイラストを設置して、来場者はより深く理解することができ、この技術の普及につなげることで、宇宙太陽光発電の実現を目指す。</p> 

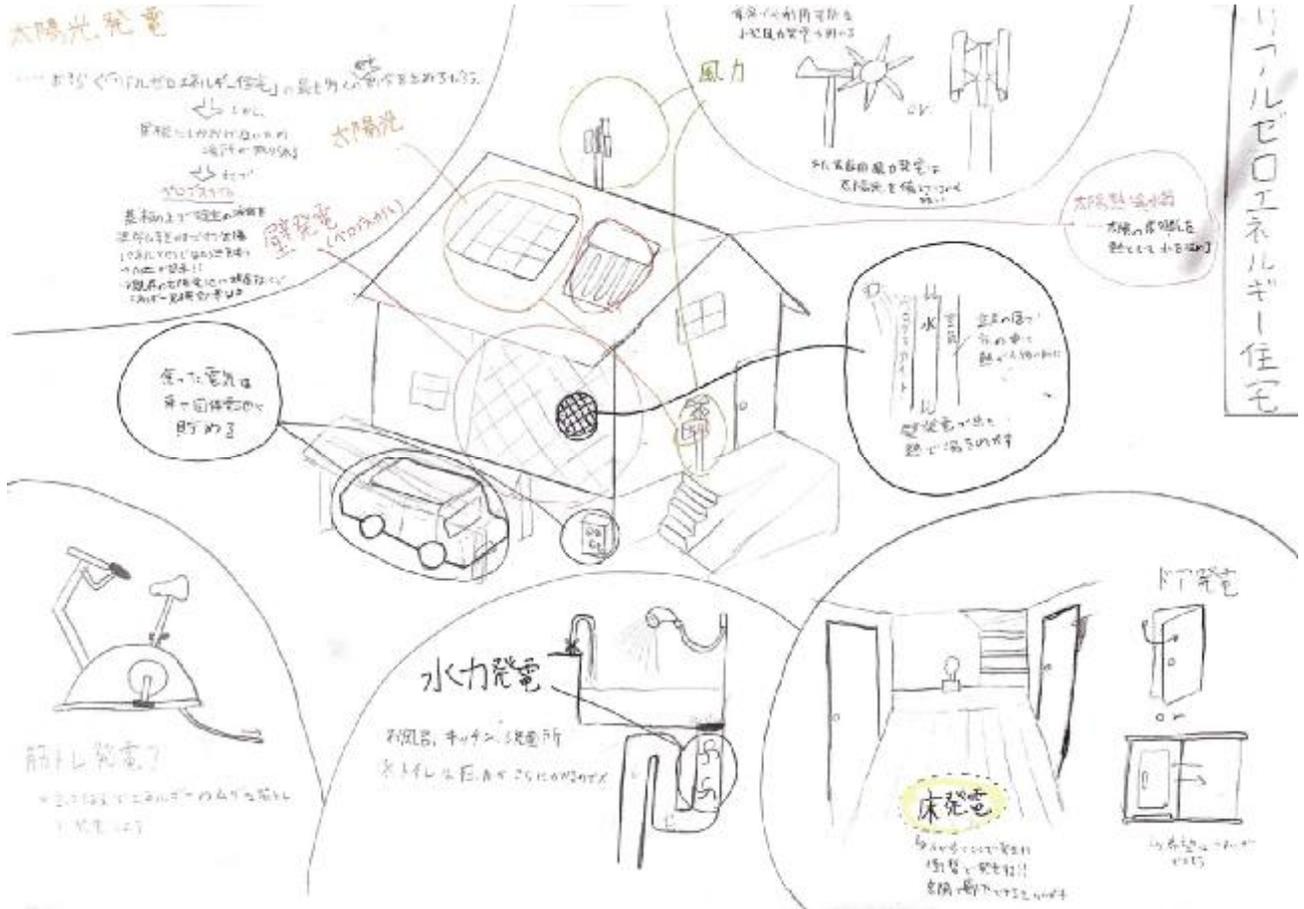
2025年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>①エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
<p>1班-3</p>	
<p>アイデア名</p>	<p>きみのスマホでロボットを動かせ!!</p>
<p>キーワード</p>	<p>宇宙太陽光発電、ワイヤレス給電、レクテナ発電</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>万博の会場に「レクテナ発電」を設置する。レクテナ発電とは、周辺の電波を拾い、発電をするものである。「レクテナ」とはワイヤレス給電の受信機のこと、将来自然エネルギーとして有望な宇宙太陽光発電にも繋がる技術であり、万博会場でこの技術の革新と一般の方々への周知を図る。</p> <p>具体的には来場者が集まりやすい場所にレクテナ発電を設置することで、来場者のスマートフォンの電波で発電を行うとともに、給電が行われると目の前に置いてあるロボットが動く仕組みにする。ロボットは大人数のスマートフォンから給電がされると激しく動くので、ロボットの動きで来場者はその給電量が分かる。</p> <div data-bbox="491 1003 1406 1704"> </div>

2025年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>①エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
<p>1班-4</p>	
<p>アイデア名</p>	<p>リアルゼロエネルギー住宅</p>
<p>キーワード</p>	<p>電力の地産地消、再生可能エネルギー、モデルハウス</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>このアイデアは、家、マンションなどの住居に、複数の再生可能エネルギーを取り入れ、各家庭で消費する電力を電力会社に頼ることなく、自分たちの手で生み出していける「リアルゼロエネルギー住宅」を実現しようというものです。万博では、この「リアルゼロエネルギー住宅」を、実際に会場内で建設し、モデルハウスとして来場者に体感してもらいます。</p> <p>【住居に取り入れ可能であろうと考えた再生可能エネルギー】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 太陽光発電 2. 壁発電(ペロブスカイト太陽電池) 基板材料に塗布し、乾かすだけで太陽光パネルと同じはたらきをもつペロブスカイト太陽電池を、モデルハウスの壁に塗って太陽光発電を行う。 3. 風力発電 4. 水力発電 5. 床発電 人が床を歩いたときに発生する衝撃をエネルギーに変換する仕組み。これを玄関や廊下など住人がよく歩くだらう場所に設置して発電を行う。 6. ドア発電 ドアの開閉によって人間がドアに及ぼしているエネルギーを電力に変換して発電を行う。 <p>加えて、これらの電気を貯蓄する固形電池(EX.電気自動車など)を設置する。</p> <p>【イメージ図】 2 ページ目参照</p>

2025年大阪・関西万博へのアイデア集



2025 年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>①エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
<p>1 班-5</p>	
<p>アイデア名</p>	<p>万博における再エネ発電システム実証実験</p>
<p>キーワード</p>	<p>電力の地産地消、再生可能エネルギー、電力のピークカット</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>私たちは、各家庭で行う電力の地産地消とはもう一つ、地域での電力の地産地消を考えました。再生可能エネルギーを用いて電力を地産します。地域で消費される電力は莫大なもので、夏期の関西の最大消費電力は 2700 万 kW 以上と聞きます。この電力を電力会社の発電所を使わず、地産するのは困難です。そこで、私たちは地産した電力を、最も電力が使われるお昼頃に使い、最大消費電力を下げること（ピークカット）を考えました。会場全体で 1 万 kW の発電を可能にすることを目指します。</p> <p>万博で発電可能だと考えた再生可能エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電 ・風力発電 ・潮力発電 ・高層ビルでの落水発電 ・温度差を利用した発電 <p>また、大阪・関西万博会場に発電と送電を管理する EMS(Energy Management System)を導入します。万博会場をひとつの町として捉え、将来のまちの電力の在り方を来場者に体感してもらいます。そのために EMS で管理している電力の情報を来場者にディスプレイや AR を通して伝えます。</p> <p>エナジーハーベスティング技術を活用した発電装置や自転車で発電できる装置も設置し、来場者が動力となって発電された電力がどのように使われているのかも表示します。</p> <p>また、ディスプレイには天気の情報も掲載されており、天気によって万博会場に設置されている自然再生エネルギーの発電効率と蓄電量も見て分かるようにします。</p> <p>そして万博が終わるときに、今までの発電の実績を表示し、これらの規模の設備が今後増えていくと関西全体でどれぐらいの発電ができるようになるかを掲載します。</p>

テーマ	②住み続けられるまちづくりを
2班-6	
アイデア名	仕掛け学を用いたポイ捨て0計画
キーワード	仕掛け学、ゴミ箱、ポイ捨て
アイデアの説明	<p>綺麗で衛生的なイメージのある日本からポイ捨ての無いきれいなまちづくりを世界に提言したいという思いから万博後の夢洲に仕掛け学を用いた、思わずゴミを捨てたくなるゴミ箱の設置を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none">・筒とゴミ箱が繋がっていてペットボトルのキャップを入れるとキャップが筒の中を流れてゴミ箱に入る。・高いところに設置して玉入れのようなごみ箱を設置する。・アンケート調査ができるゴミ箱を設置してゴミを捨てながら街頭アンケートに回答できるようにする。

2025年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>②住み続けられるまちづくりを</p>
<p>2 班- 7</p>	
<p>アイデア名</p>	<p>まちをつなぎ、学ぶ意味を見つける体験型学習 ～教室の中から教科書を越えた学習を！～</p>
<p>キーワード</p>	<p>学生、グローバル、ローカル、SDGs</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p><背景></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.都市と地方の教育格差 2.過疎によるまちの消滅、再開発・コンパクトシティ化 ⇒学生は地方の問題や文化を学び、地方に住む高齢者は学生とコミュニケーションを取れる機会を作る 3.詰め込み教育 ⇒教科書の内容を SDGs等と関連付け、今の勉強が世の中にどうつながるかを実感する <p><万博で行いたいこと></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知りたい地域と中継をつなぎ、全国リアルタイムで話を聴ける 例) 技術が有名なまちとつないで地元の人が解説してくれたり、歴史・文化が残るまちを観光する等の VR 体験 2. 教科書の内容につなげた VR 体験 例) 理科なら、万博で使われる科学技術の仕組みを実験できる <p>将来的には各学校にこのような VR や ICT などの最新技術の導入を目指し、どこに居ても教科書を越えた現場体験ができるパビリオン(教室風)を設置したい。</p> <p>※教科書の内容や地域の事情を把握しているスタッフを配置したい</p>
	

イメージ①

<<https://xtech.nikkei.com/it/atc/column/15/110400255/051600015/>>より



イメージ②

<<https://xr-hub.com/archives/5834>>より

2025年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>②住み続けられるまちづくりを</p>
<p>2 班- 8</p>	
<p>アイデア名</p>	<p>まちづくりワークショップ ～あなたは持続可能な都市を築き上げることができるのか!?!?～</p>
<p>キーワード</p>	<p>VR、持続可能な社会、エンターテインメント</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>このアイデアは、多様な国の人々がバーチャル国会と VR 体験型ゲームを通じて交流できる内容である。</p> <p>まずは、用意している候補都市の中から、自分たちがゲームを通じて話し合っていきたい都市を一つ選ぶ。次にオンライン上のバーチャル国会で理想のまちについて直接民主制で決定していく。ここでは環境・社会・経済を指標で考えて、お金と時間をツールとする。</p> <p>そして万博会場では、オンライン上で一緒に理想のまちについて考えた人たちと出会うことができ、一緒に考えた理想のまちを、万博会場のパビリオン内の VR で見ることができる。</p> <p>VR で見ている最中に不便や不都合などを感じる事があれば、差し替えを行えるため更新も可能である。</p>

2025年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>②住み続けられるまちづくりを</p>
<p>2班-9</p>	
<p>アイデア名</p>	<p>データ化のもたらす面白い未来の実験</p>
<p>キーワード</p>	<p>個人情報、共有、心理的抵抗</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>1. 目的 自らの情報すべてを提供、共有しなければならないことと快適で楽な体験が待っていることが相反するとき人間はどういった行動を起こすかを実験すること。</p> <p>2. 手法 入場する際に様々な自らのデータを登録し、それを入場者、開催者、その他で共有する。それを画像認識によって瞬時に判断するようにする。 それを用いたデータ化によってもたらされる楽しい体験を宣伝する。 例)・食べたいときに食べたいものを 一察して届ける宅配便— ・みんなで誕生日をお祝いしよう 一お祝いから広がる笑顔の輪— ・あの人に話しかけようかな 一気分メーター— これらを体験したとき人間はどのような反応をするかを調査。</p> <p>3. 意義 人間をデータとして扱う傾向とその心理的抵抗の狭間でどうしていくかを考える重要な実験となる。</p>

2025年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>②住み続けられるまちづくりを</p>
<p>2 班- 10</p>	
<p>アイデア名</p>	<p>次の世代の移動場所</p>
<p>キーワード</p>	<p>橋、交流</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>道の目的は交通性だけではない。 そこに人々の交流があるから街は街らしくあることができる。 しかしボーダーレスが進み、また配達技術の発展やネットを用いた仕事などが広がることによる人間が外を歩く必要がなくなった時今のような道は生き残れるのだろうか？道が交通性を失ったとき、街は街であるのだろうか？</p> <p>交通性(徒歩性)が失われ、グローバルな場所として万博会場へと向かう橋を発見した。そこをただ車の通るお祭りや日常をつなぐ接点として置いておくのはもったいない。</p> <p>そんな場所を使って街の交流地点を構成していく。その場所は道が交流拠点としてどれほどのポテンシャルを持つかを実験することができ、それは街が街らしくあるための検証となる。</p> <p>交流拠点は時系列による濃度、コンテンツなど様々なパラメータを変化させることでその実力を試すことができる。</p>

テーマ	②住み続けられるまちづくりを
2 班- 11	
アイデア名	前例なき行政実験！夢洲から始める新しいまちづくり ① 夢洲特区の制定
キーワード	だれでも参加できる場、規制改革
アイデアの説明	 <p>【夢洲特区の制定】 夢洲を国 or 府・市と並列の関係の「特区」と位置付ける 各種規制による制限を受けず、名実ともに「実験島」とする 先進的な政策立案／技術実証のフィールドとして活用へ</p> <p>【万博での適用】 現在の各種法制度では制限されている展示物（例：自動運転／空飛ぶ自動車、など）も、体験展示を実現可能とする 人種／国籍を問わず夢洲（万博）運営に参画でき、真に開かれたイベント開催を目指す（会場内を歩くときに、XRを活用して未来の行政像を疑似体験、など）</p> <p>【万博前後の実現イメージ】 本提案以外の、各班が提案するような従来にない新規な内容を実現するための制度づくり 各国の先進的な技術実証を、夢洲の地でなら実現できるようにし、プレゼンス向上と賑わい創出を期待</p>

テーマ	②住み続けられるまちづくりを
2班-12	
アイデア名	前例なき行政実験！夢洲から始める新しいまちづくり ②直接民主制の導入
キーワード	規制改革、意思決定の見える化、ICT/AI活用
アイデアの説明	<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">図：バーチャル国会のイメージ</p> <p>【直接民主制の導入】</p> <p>夢洲関係人口による直接民主制により、各種政策の成否を決定</p> <p>⇒ 関係人口：地域や地域の人々と多様に関わる人々（出典：総務省）</p> <p>各種政策の立案／議論／採否は公開性による直接民主制で実施</p> <p>⇒ セキュアなICTの活用により、政治過程の完全見える化を担保</p> <p>自らが政策決定に影響力を行使でき、ネット投票も実現することで、若年層の政治への関心を高める</p> <p>【万博での適用】</p> <p>万博開催に向けて、パビリオンをはじめとしたハード／ソフトの整備に関して、関係人口が闊達に意見を提示し、意思決定に参画する（市民目線のイベント運営）</p> <p>バーチャル国会の仕組みを採用する（万博前から意見交換を行い、万博期間中はオン／オフライン問わずワークショップ実施）</p> <p>【万博前後の実現イメージ】</p> <p>バーチャル国会とは、関係人口が24時間365日コミュニケーション可能なプラットフォームを想定</p> <p>バーチャル国会を開催し、関係人口による意見提示／議論／採決が可能な環境を構築し、意思決定を行う</p> <p>民意を直接取り入れる制度を導入し、行政への関心を高める</p>

テーマ	②住み続けられるまちづくりを
2 班- 13	
アイデア名	前例なき行政実験！夢洲から始める新しいまちづくり ③先進 ICT/ AI の活用
キーワード	EBPM、AI による政策立案
アイデアの説明	<div data-bbox="459 593 1034 1099" data-label="Image"> An illustration of a person with a large, blue, brain-like head sitting on a wooden stool. They are holding a paintbrush and painting a colorful cityscape on an easel. The cityscape includes buildings, green hills, and a blue sky. The person is wearing a white shirt and a dark blue apron. There is a palette of colors next to them. </div> <p>【先進 ICT/AI の活用……】 政策立案にあたり、AI も活用して、あるべき「万博（夢洲）運営像」を導き出す 全ての意思決定を Web 上で行い、完全ある可視化を目指す</p> <p>【万博での適用】 万博で展示するパビリオン／入場料／プロモーションなどの施策立案を、AI に実施させる（最適化されたイベント運営） AI の立案した政策の採否は関係人口で決定（従来の行政では思いもつかなかった斬新な施策を立案するためのツールとして活用）</p> <p>【万博前後の実現イメージ】 万博運営のみならず、特区としての「夢洲」運営に関わる種類の政策立案を実施 万博／夢洲運営全般の手続きオンライン化を推進する</p>

2025年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>③つくる責任 つかう責任</p>	
<p>3班-14</p>		
<p>アイデア名</p>	<p>#串アクション</p>	
<p>キーワード</p>	<p>リデュース、エコパッケージ、竹害対策、カーボンニュートラル</p>	
<p>アイデアの説明</p>	<p>・万博の屋台で串カツに加えて、普段はパッケージを使用して販売するたこ焼き、お好み焼き、イカ焼きなども竹串に刺して販売。受け皿や袋を使わず、竹串のみでの販売(エコパッケージ)は、過剰包装対策となる。また、ごみの回収の際も分別が容易である。</p> <p>・日本では竹林の拡大による他の植物への影響、崖崩れの危険性の増大などの問題がある。増えすぎた竹を竹串として使用することで同時に竹害の解決策を提示する。</p> <p>・成長過程で二酸化炭素を吸収し、酸素を排出している植物性のものを使用するので、カーボンニュートラルの観点から、ごみの焼却で出る二酸化炭素を実質ゼロにできる。</p> <p>・万博だけでなく関西圏全域で取り組みたい。</p> <p>・このアイデアを一つのファッションとして、SNS等で「#串アクション」として流行させたい。</p>	



テーマ	③つくる責任 つかう責任	
3班-15		
アイデア名	○○産の海洋プラでハンドメイド！	
キーワード	海洋プラスチック問題、海ごみアート、ハンドメイド	
アイデアの説明	<p>・海洋プラスチックを利用したハンドメイド作品、アートを作る。楽しみながら海洋プラスチック問題について考えることができる体験型のアイデア。</p> <p>・海洋プラスチックの漂流は、日本全国で共通の問題。漂流したプラスチックごみは日本のものもあれば海外のものもある。日本全国に漂流したプラスチックごみを集め、それがどこから来たものなのか表記の言語やバーコードなどから把握し、学習する機会を同時に設けることで、島国である日本の特徴を生かして世界に海洋プラスチック問題を発信したい。</p> <p>・海洋プラスチックで作ったアートは記念に持って帰ってもらい、ごみでも大切な作品に生まれ変わることができるということを伝えることができる。</p>	



写真：【可愛いで地球を守る！】マイクロプラスチックを使ったアクセサリー
 sobolon,CAMPFIRE,
<https://camp-fire.jp/projects/view/169608>

テーマ	③つくる責任 つかう責任
3 班-16	
アイデア名	ごみ拾い×スマホゲーム
キーワード	ごみ拾い、スマホゲーム、コラボ、イベント、リサイクル
アイデアの説明	<p>万博とスマホゲームがコラボすることで、万博限定のイベントが開催可能であると考えられる(例:ポケモン GO...位置情報を利用し、実際自分で目的地に赴いて行うゲームとのコラボが望ましい)。</p> <p>例えば、自分たちのまちのごみを拾うことによってスマホゲーム内でレアアイテムを入手することや、レアキャラ、レアイベントに遭遇することができる機能を実装することで、ごみ拾いを単調な作業ではなく楽しい遊びとして行うことができ、全員が進んでその空間を清掃する環境を作ることができると期待される。</p> <p>さらに具体的には、ペットボトルにつけられている JAN コードを利用して、まちの中で拾ったペットボトルの数をプレイヤー間で競う等して得られたポイントを万博内で利用できるようにしたり、ごみを拾うと表示される特別な QR コードを万博内に設置された機械で読み取ると、アイテムやイベントを得られたりする等の案を提案する。</p> <div data-bbox="478 1209 1404 1523" data-label="Image"> <p>The illustration depicts a three-step process: 1. A person in a blue shirt looks at a smartphone displaying a map with a red location pin. 2. An arrow points to a person in a blue shirt using a blue tool to pick up a clear plastic bottle. 3. Another arrow points to a person in a blue shirt scanning a green QR code on the bottle with their smartphone.</p> </div>

2025年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>③つくる責任 つかう責任</p>
<p>3班-17</p>	
<p>アイデア名</p>	<p>万博マークリユース皿 by 木材</p>
<p>キーワード</p>	<p>木材、リユース、万博マーク、記念品、生分解性</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>万博の会場内では、たこ焼き等の出店が出されると考えられる。出店で最も問題になるのが使い捨て容器のごみである。我々はこの解決策として万博マーク入りリユース皿の利用を提案する。食欲をそそるおしゃれなデザインにし、さらに万博のマークをプリントすることで記念品としての特別感を付与し購買意欲を掻き立て、容器を購入者に持って帰ってもらうことでリユース、リデュースにつなげることができると考えられる。また、旅行者などで、汚れたお皿を持って帰るのが難しい方たちのために、食器の返却所も会場内に設置し、デポジット制を取り入れる。加えて、リユース皿の材料には、近年研究されている木材で作られたプラスチックを採用することで、環境に配慮していることをさらにアピールする。リユース容器を積極的に採用し、万博を起点にマイボトル等の習慣を広げていきたい。</p>



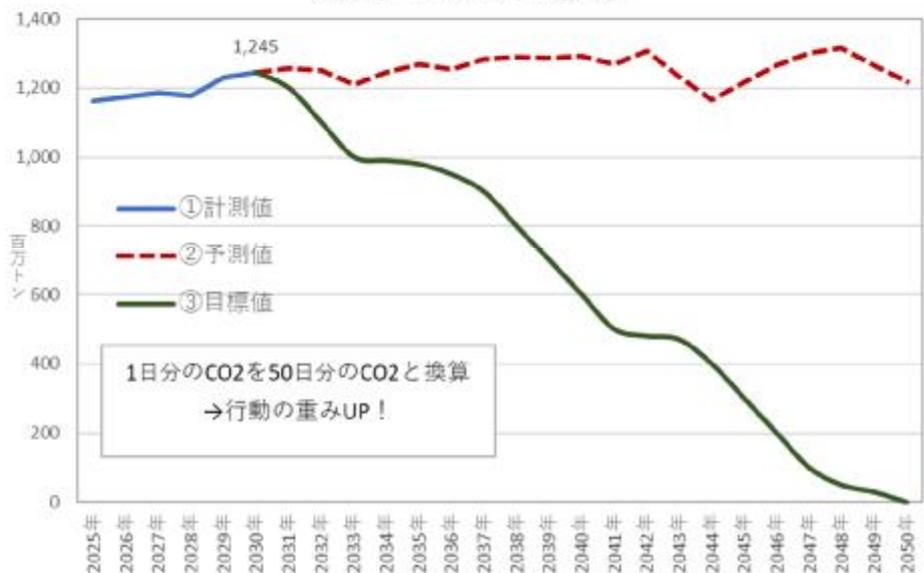
2025年大阪・関西万博へのアイデア集

テーマ	③つくる責任 つかう責任
3班-18	
アイデア名	海洋プラを見てみよう
キーワード	マイクロプラスチック汚染、漂流ごみ、海洋生物、生物濃縮
アイデアの説明	<p>近年、漂流ごみによる海洋汚染が深刻化しており、特にプラスチック樹脂は水に溶けにくく、形を保持した状態で海洋に残るため生態系に悪影響を及ぼしている。その現状を万博に来た人々に、より身近な問題として認識してもらうための案として、VR技術を利用したアトラクションを提案する。</p> <p>アトラクションでは、海の中で生活する海洋生物の視点から海洋プラスチックなどの漂流ごみを見ることができる。海洋生物視点から見たごみのショッキングな映像と共に、我々がこれから望む未来の技術として、海の中のプラスチックのみを引き付ける新技術の体験ができる。</p> <p>海に機械をかざすと、プラスチックごみのみを引き付けて回収できる、というような映像をつくり、体験型アトラクションとして万博で提供する。</p>

テーマ	④海の豊かさを守ろう 陸の豊かさも守ろう
4班-19	
アイデア名	CO2 simulation to 2050
キーワード	可視化、CO ₂ 、地球温暖化
アイデアの説明	<p>4班のアイデアは3つ合わせて1つのシステムとなる。万博期間中、会場内のCO₂排出量を計測し予測と共にグラフ化し公開するアイデア。万博開催期間の約180日計測。この時1日分のCO₂量を約50日分に換算し、終了日にグラフ上で2050年(25年後)を迎えられるようにする。グラフでは、①万博開始日から現時点までのCO₂量②当日から終了日時(2050年)までの予測を示したもの③終了日時(2050年)までに排出量0を達成するもの。これら3つの数値をグラフ内で表現する。添付図は万博開始から36日後のイメージグラフ。</p> <p>人々に2050年という未来を意識しながら、自分たちの1日の行動次第で環境への負荷が変わっていく様子をリアルタイムで体感してもらう機会としたい。また、様々な方法で公開することで、感じづらい人間活動による環境への影響を認識してもらい、地球環境の未来を自分ごとに感じてもらうことを目指す。</p>

万博開始から36日後のCO2 simulation to 2050

※計測上では2030年を迎える



2025年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>④海の豊かさを守ろう 陸の豊かさも守ろう</p>
<p>4班-20</p>	
<p>アイデア名</p>	<p>Virtual Earth</p>
<p>キーワード</p>	<p>仮想エリア、MR/VR、生物多様性</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>前述の CO2 simulation to 2050 で可視化されたデータをもとに、仮想空間で地球環境とその変化を公開する。仮想空間の名称を Virtual Earth（以下、VE）とする。VE は、MR(複合現実)、VR(仮想現実)、アプリを通じて体験することができる。</p> <p>MR では、万博会場内の公共性の高いエリア（広場等）に投影し、来場者に自然と目にしてもらおう。そうすることで、来場者は地球環境のリアルな状況とその変化を視覚的に認識できる。</p> <p>VR はパビリオンの中で体験でき、VE の中に入り込み、地球環境の詳細な状態を確認することが可能。また、VR を用いて、VE 内の環境を修復する環境活動の体験を行うことで、環境のためになる行動について正しく理解し体感できる。</p> <p>アプリでは、万博会場だけでなく、日常生活での環境への取り組みをアプリ内で発信することにより、VE の修復が可能となる。そうすることで、万博会場に来ていない人の関心も集めることができる。また、VR やアプリを通して環境を修復すると、後述の Sustainable Point を得ることができるため、来場者のリピート参加や新規来場者の獲得にもつながる。</p>

テーマ	①海の豊かさを守ろう 陸の豊かさも守ろう
4班-21	
アイデア名	Sustainable Point
キーワード	擬似通貨、リターン、環境貢献度、可視化
アイデアの説明	<p>環境への良い行動に対して、個人に還元される仕組みを実現する、アイデア。些細な行動からも還元されることで、一人一人が前向きにまた自然に環境修復活動に取り組んでいくことを目指す。</p> <p>Sustainable Point（以下、SP）は、環境に対する良い行動をすると取得でき、万博内の様々なエリアで擬似通貨のようなものとして利用できる。具体的には、マイバックの使用、環境に優しい商品を選んで購入する等の実際の行動からVEやアプリ内での環境活動など、全ての環境修復に繋がる行動を指す。</p> <p>SPの導入により、行動に対してのリターンを実際に体感すること。また、人々が環境のためになる行動について具体的に正しく認識し、その行動を体験する機会としたい。この仕組みを活用し、環境貢献度の高い未来の実現へと繋げる。</p>

2025 年大阪・関西万博へのアイデア集

<p>テーマ</p>	<p>⑤ローカルからグローバルへ、グローバルからローカルへ行動しよう</p>
<p>5班-22</p>	<p>しよう</p>
<p>アイデア名</p>	<p>人生の最期に人生のピークを！ドラマチックなバーチャルエンディング</p>
<p>キーワード</p>	<p>Quality of life、不老不死、未来体験</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>人類は、これまで不老不死を目指し、科学を発展させてきた。しかし、超高齢化社会の日本では、介護殺人や老々介護、孤独死、などの社会問題を抱えており、医療が発達したが故に苦しむ人たちがいる。これは、不老不死までの過渡期だからだろうか？ 不老不死が実現した世界で、死の意味と価値を問う。</p> <p>という、裏テーマを忍ばせた、不老不死が実現した未来社会の VR 体験ブースを出展する。ブースは10分から30分程度で体験できるイメージ。</p> <p>シナリオ① あなたは椅子型タイムマシンで不老不死が実現した未来へ行きます。</p> <p>シナリオ② あなたはこの未来で、今はない価値観や死生観を持つ人々とのコミュニケーションを取ったり、彼らの生活を体験できます。</p> <p>シナリオ③ 皆さんの様々な感想は、系統ごとに木の葉となって1つのアートとして表現されます。 万博の帰路、「あなたはどんな人生のエンディングを迎えたい？」という会話が生まれることを目指します。</p> <div data-bbox="772 880 1445 1016"> <p>椅子型タイムマシン 視覚、聴覚、触覚へVR技術を使い、未来社会をVR体験 未来社会をVR体験</p> </div> <div data-bbox="772 1046 1445 1189"> <p>全員が若々しい身体 宇宙への移住 人格の電子バックアップ</p> </div> <div data-bbox="772 1216 1445 1361"> <p>死生観の共有アート アシタチャブルな死についての会話 人生のハッピーエンドに迎え合う</p> </div>

<p>テーマ</p>	<p>⑤ローカルからグローバルへ，</p>
<p>5班- 23</p>	<p>グローバルからローカルへ行動しよう</p>
<p>アイデア名</p>	<p>けんめいぼうさい。～若者防災プロジェクト ※懸命・賢明・顕明・件名 (to) の意味</p>
<p>キーワード</p>	<p>気候変動・自然災害・世代間交流</p>
<p>アイデアの説明</p>	<p>気候変動による影響等で，世界各地で自然災害が深刻化している。災害の多い日本だからこそ，万博会場で“けんめいぼうさいWeek”というイベント週間を設ける。本提案ではその中でも中核となる2つの事業提案を示す。</p> <p>① 万博を契機に，災害に強いコミュニティ形成を目指して，世界各地で取り組みを進める。プロジェクトは2023年から開始し，万博を目指して会場で最終発表会を行いながら交流を生む。その後も2027年度まで活動する計画を立てて一過性では終わらず，継続した取り組みに発展させる。</p> <p>† 既に実施中の世界津波の日高校生防災サミット等既存事業との融合も検討。</p> <p>② 世界各地の被災地復興への取組等を共有し，発信することを目的とする福幸祭を万博会場で開催。各々の取組を共有・発信することで今後の災害に備える。</p> <p>† プロジェクトの構想図</p> <p>■ 共通内容</p> <p>○事前合宿・スタディーツアー ○地域での実践活動 ○経過報告（万博前に2回実施） ○各種イベント参加</p> 